

## 硫黄鳥島の火山活動解説資料（令和5年10月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター  
沖縄気象台地震火山課

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

4日に第十一管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、グスク火山火口周辺及び硫黄岳火口で、前回の観測（2022年11月）に引き続き白色の噴気が確認されました（図2、図3）。島の西岸で茶褐色～緑色の変色水域の分布が認められました（図2）。

18日に気象庁の海洋気象観測船「啓風丸」が実施した海上からの観測では、グスク火山火口周辺及び硫黄岳火口で、前回の観測（2022年6月）に引き続き白色の噴気を確認しました（図4、図5）。硫黄岳火口周辺の海域では変色水域を確認しました（図6）。また、風下側で硫化水素臭を確認しました。



図1 硫黄鳥島 噴気位置と各図の撮影方向

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。



図2 硫黄鳥島 硫黄岳火口周辺、グスク火山火口周辺及び変色水域の状況（4日）  
左上：硫黄岳火口及び変色水域の状況（2023年10月4日撮影）  
右上：グスク火山火口の状況（2023年10月4日撮影）  
下：硫黄鳥島西岸の状況（2022年11月4日撮影）※白破線内は左上図の概ねの撮影範囲  
・4日に第十一管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、グスク火山火口周辺及び硫黄岳火口で白色の噴気が、島の西岸で茶褐色～緑色の変色水域が確認されました。

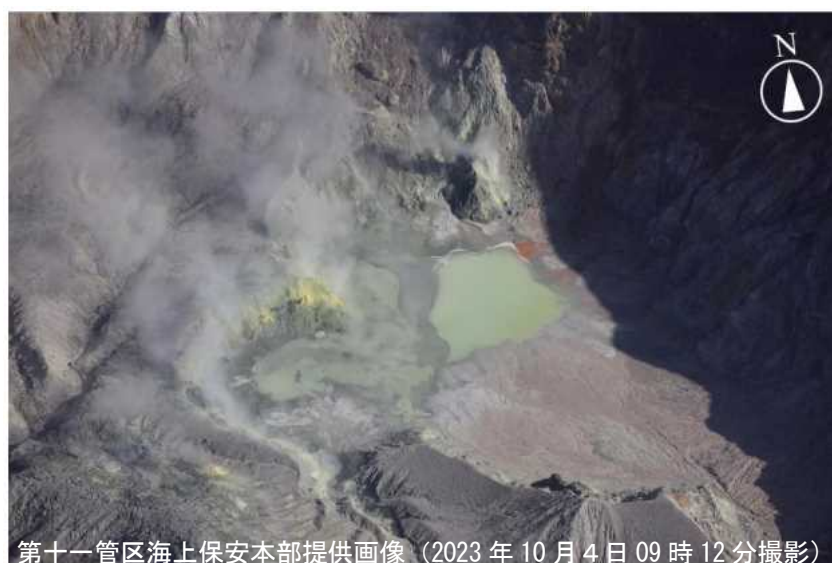


図3 硫黄鳥島 硫黄岳火口内の状況（4日）  
・4日に第十一管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、火口底及び火口内壁から白色噴気の放出を複数箇所認められました。



図4 硫黄鳥島 グスク火山火口周辺の状況（18日）

・前回観測（2022年6月）に引き続き白色噴気（黄破線内）を確認しました。



図5 硫黄鳥島 硫黄岳火口周辺の状況（18日）

・前回観測（2022年6月）に引き続き白色噴気（黄破線内）を確認しました。



図6 硫黄鳥島 変色水域の状況（18日）

・硫黄岳火口周辺の海域で変色水域（白破線内）を確認しました。